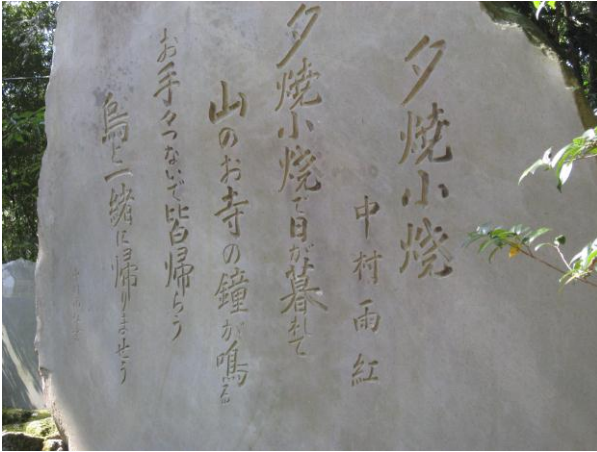


# 八基連だより

11月号 第255号



夕焼け小焼けの碑(恩方)

<http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/>

発行日 平成24年11月1日(木)  
発行所 八王子囲碁連盟  
住所 八王子市台町3-22-1-121  
TEL (042) 625-9529  
発行人・三上 靖宏  
編集者・山縣 文雄

## 八王子囲碁連盟の目的

八基連は、八王子市内に居住する囲碁愛好者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるよう機会を提供し、福祉の増進に寄与するとともに、棋力の向上を図ることを目的とする。

## 私の囲碁人生雑感

台町囲碁同好会 会長 高本 衛

### 一投了して褒められたこともあるー

今から50年近く前、政治家でもあり教育者でもあった稗方弘毅氏(元秋田県知事・私立大学協会会長)に勤務中に呼び出されて碁のお相手をする機会に恵まれた。当時は、政財界や文化人で囲碁をたしなむ方がかなり多く、名誉何段というのはざらにあった中で、稗方先生は80歳近くになっておられたが、真正銘の六段でいわゆる名士の中では図抜けて強いので知られていた。大きな体を小さく丸めて下段から相手を見据えるだけで威圧してしまう凄さがあった。

どこかで情報を得て私を指名してほしいが、先生の前に座っただけで震えが来て碁の内容もひどく形勢ははっきり悪くなってしまったが、つぶされないように粘っている内に、先生は高齢のためか少しずつミスが出てきて、大ヨセの当たりで逆転してしまった。その時ふと我に返ってこのまま押し切ってはまずいと思い、座り直して「悪い碁をズルズル打ち続けて申し訳ありませんでした。」と言って投了した。しばらくの沈黙の後、先生から「君は碁を良く分かっている、気に入った」と言われ、日本棋院の免状(飛び付き四段・免状料は三段の半額)を推薦してくれる(費用も先生持ち)という話にまでなってしまった。投了して褒められたのは生涯この一局だけかもしれない。

幸か不幸かこれを機に上の段の免状が欲しいという気持が湧き、40歳頃に棋院のサマーセミナーに参加して四段戦で優勝して無料で五段を取得、50歳頃に棋院で九段の先生の指導碁(3万円の検定料)で勝利して六段をゲット、60歳の還暦祝い代わりに当時指導を受けていた故安部吉輝九段に三子局(三面打ち)で運よく5連勝して七段を推薦していただいた。

ところで、私の囲碁観は大学の囲碁部で先輩たちから叩き込まれた教えが根底にあるように思う。目先

の勝ち負けにこだわらず実力を付けて内容の良い碁を打つよう心掛け、大切なのは結果よりプロセスが重要だという考え方である。また、学生の時に参加した大会といえば関東学生リーグ戦（団体戦）だけだったが、持ち時間は90分（八碁連大会の3倍）で、この時間を目一杯有効に活かして可能な限り最善を尽くすというスタンスを身に付けた。これに関しては、平成21年11月の碁楽連だより219号に掲載されているのでご覧頂きたい。という訳で八碁連の大会での対局は、相手や盤上で戦うというよりは時計と戦っているようなものである。勝敗の行方は指運に任せるといっても過言ではない。

また、私の囲碁上達法は昔から今日に至るまで、その日に打った碁を帰宅してから並べ直して棋譜を取って検討するというので、近年はパソコンという便利なものが発達して棋譜ソフトを利用出来るので助かっている。

さらに、従来は四子以上の置き碁は打たない主義だったが、数年前から宗旨替えして置き碁でも積極的に打つようにしているが、それでも1日1局は必ず並べ直しをしている。その成果が出てきて今では置き碁を苦にしなくなり勝率アップにもつながっている。

私が他の人と異なるのは、単純ミスで碁が終わってしまうような場合は「マッタ」を容認する（トーナメントは別）ことで、現在、東浅川保健福祉センターで級位者の指導碁を担当しているが、明らかな悪手の場合は理由を説明して打ち直し、良い手はその場で指摘するようにしている。折角の機会なので一手バツリで終わってはもったいないし、級位者が少しでも碁の面白さを分かってもらい、碁力向上に繋がればと願いながら、月1回だけお手伝いをさせてもらっている。

## 11月の囲碁大会

### 1. 第62回八王子市民文化祭囲碁大会

日時 11月3日（土・祝日） 午前9：30から受付開始  
会場 東浅川保健福祉センター 4階 第5・6・7集会室  
参加費 1,000円（昼食を含む） 高校生以下500円

### 2. 第23回八碁連囲碁大会 3段以上

日時 11月11日（日） 午前9：10から受付  
会場 東浅川保健福祉センター 4階 第5・6・7集会室  
会費 700円（昼食を含む）

申し込みは終わっています

## 第22回 活いき囲碁大会の結果

### 長房大会

参加者

10月7日(日) 於 長房ふれあい館

長房	浅川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	北野	川口	非会員	計
21	9	4	6	3	6	2	5	6	3	2	67

Aクラス (4段～7段) 24名

優勝：高本衛 台町/7段 準優勝：佐藤久雄 大和田/4段 3位：名取進 長房/4段

Bクラス (初段～3段) 22名

優勝：溝呂木久雄 恩方/2段→3段 準優勝：野口勝彦 元八王子/初段 3位：平山統 元八王子/3段

Cクラス (7級～1級) 21名

優勝：秋谷有宏 長房/5級→4級 準優勝：甲斐正憲 北野/2級 3位：根岸重利 大和田/2級

### 川口大会

参加者

10月21日(日) 於 川口市民センター

川口	浅川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	北野	長房	計
22	5	6	6	2	4	1	2	2	4	54

Aクラス (5段～7段) 13名

優勝：井上国臣 川口/5段→6段 準優勝：森英一 川口/6段 3位：吉沢實 恩方/7段

Bクラス (3段～4段) 22名

優勝：余多分明男 川口/4段→5段 準優勝：長澤勝美 川口/3段 3位：梶原和夫 浅川/4段

Cクラス (5級～2段) 19名

優勝：根本清 大和田/1級→初段 準優勝：渡辺恵介 川口/2段 3位：渡辺浩良 川口/5級

訂正

### ◎ 平成24年度前期タイトル獲得者

	名人	王座		天狗	
	優勝	優勝	準優勝	優勝	準優勝
台町	高本 衛7段	相馬康三7段	渋谷昭男4段	塩津 浩6段	古賀憲秀3段

王座と天狗の入賞者が逆でした。訂正してお詫びします

## 第1回 八王子市子ども囲碁大会の結果

第1回八王子市子ども囲碁大会が、10月14日(日)、八王子市教育長坂倉仁氏、東浅川保健福祉センター館長竹内恵子氏日本棋院事務局井上信之氏をお迎えして東浅川保健福祉センターで行われました。

参加者はのべ24人とやや少なかったようですが、会場は熱気があふれて子どもたちは満足して帰りました。今後の発展を期待したいと思います。

成績 午前の部 13路盤 ハンディなし 参加13人

3勝者 雨宮里佳(横川中学校)、佐藤誠志郎(横川中学校)

午後の部 19路盤 ハンディなし 参加10人

3勝者 佐藤誠志郎(横川中学校)

第四小学校の青木咲和子さんは6段で他の子どもたちと力が違いすぎるので、本人の希望を入れて役員と対局、2勝1敗でした。今後は楽しみです。

## 投稿

もし、奥さんと同じ日に死ねたなら・・・

恩方囲碁同好会

寿老碁

「天地明察」という本を読む機会を得ました。主人公は、算術、天文、暦学などで偉業をなした江戸時代の人物渋川春海(しづかわはるみ)です。私が読む気を起こしたのは、彼が囲碁四家の一つ安井家の二代安井算哲と同一人物であると知ったからです。父の初代安井算哲、義兄の算知、それから春海と同世代の天才棋士本因坊道策も出てきます。春海と道策の碁に対する考え方とか当時の囲碁界のありようなど興味深く面白いですね。天文や暦の話は理系音痴の私にはとても理解は出来ませんが、それでも話の流れがつつい引き込まれるほどに面白いのです。登場人物もいろいろで算術の天才、関孝和や、春海のよき理解者でスポンサーでもある保科正之や水戸光圀、下馬將軍酒井忠清なども顔を出します。

さて、そんなことより本題。春海は生涯二人の女性と結婚します。二度の結婚生活において、その愛妻ぶりは、羨ましくなるほど、ほのぼのとしたものです。最初の奥さん、こと、とは子をなさぬまま残念ながら死別しますが、ことは最期まで「私は幸せ者でございます」と言いつづけていたとか。一度でいいから奥さんにそんなこと言わせてみたいですね。数年を経て初恋の人ともいうべき二度目の奥さん、えんと結ばれますが、この奥さんとは、何と、嘘か本当か、同じ日に没したというから、こんな幸せな一生あるのでしょうか。普段から仲睦まじい二人を見知っていた人たちは、二人の死を、お二人らしいと、むしろ祝ったというからすごい。あやかりたいですなあ。私はこの本の出版社角川書店のまわし者ではありませんが、読後感には爽やかで、ハッピーな気分になりました。安井算哲にあやかりたい。

最後に安井算哲こと渋川春海の言った感動的なセリフにこんなのがありました。二度目の妻えんが第一子を産んだとき、彼はえんにこう言います。「私より先に死なないでくれ、な」

八王子5中の生徒だったときのこと（昭和27年）だ。運動会が大嫌いだった。走れば必ずビリ。1日中運動場で屈辱の時間をすごすのはなんともつらかった。だから教室の授業に戻るとほっとしたものだ。ところが、体育の時間は別だった。担当は、大学出たての若い高橋先生だった。体育の時間になるとまずは準備体操をする。準備体操が終わると、皆は先生の口元を見つめている。いつも決まって「競馬場まで」。いつもの決まり文句なのだが。期待をこめて先生のほうを見つめていると、やはり今日も「競馬場まで」。ワット湧く。皆駆け出す。5中の校舎は、大和田橋の袂にある（今でもそうだが）。大和田橋を渡り、甲州街道を東へ長い坂を登る。当時は八王子競馬場という名前だけで、競馬が行われることはなかった。さあ大和田の坂を登りきって、八高線の橋を渡ると右手奥に八王子競馬場の正門が見える。その正門の前で折り返し、もとの道をたどって5中へ走って戻る。

だから体育の時間は苦しかった。いつも「競馬場まで」だから。しかし、どの時間にもまして、体育の時間は印象に残っている。何しろいつも「競馬場まで」だったから。この体育の時間の総決算は、2月に行われる年に一度のマラソン大会だった。この日は、午後の時間を使って5中から日野駅まで全校生徒が往復する一大イベントだ。当時は、多摩平団地はなく、甲州街道から豊田駅方面まで一面の原野が広がり見渡せたのが印象に残っている。

100メートル競走では、必ずビリの私がこの日ばかりは丁度中間ぐらいの順位だった。自分としては上出来であった。筋肉痛の快い痛みで顔をしかめながら、手すりにつかまりながら階段を上がったのが思い出される。友達同士大声で話しながら家路をたどるのは楽しかった。

身体を動かすのなら何でも得意の体の大きな友達がいた。うちの同業者である染屋の倅の松尾という男だ。この男が、あるときいいことを教えてくれた。「高橋先生がな、こう言うんだよ。誰だって坂道の登りは苦しい。だからこそ、平地の2倍・3倍の力を出せとね。高橋先生は何でもないような顔をして走っているけれど、やはり苦しいんだってさ」

これを教えてくれた松尾君は、昨年亡き人になってしまったが、彼の言葉は今でも私の中に残っている。とにかく、あ那时的若き高橋先生ったら、はじめはゆっくりと弾むように走り、大和田の坂にかかると徐々に早くなるのだからとてもかなわなかった。戻るときには、最後尾に回り後ろから生徒の調子を見守りながら、軽く流していたが。

このときから60年後の今、私は、蛇滝の坂道を登りながら考える。ハアハアしながら考える。「平地の2倍の力を出さないでね」と。松尾君がそういっている。高橋先生が後ろにいると思えばいい。松尾君の分もがんばらなくては。70歳でなくなった親父の分もがんばらなくては。今日はどうして亡くなった人のことばかり思い出されるのかな。本堂でよくお祈りをしてこようっと。二人の恩人のめいふくを祈り、二人に感謝していますと飯縄権現様に二人に伝えてもらうように、しっかりとお願いしなくては。

## ◎第7回八碁連理事会報告

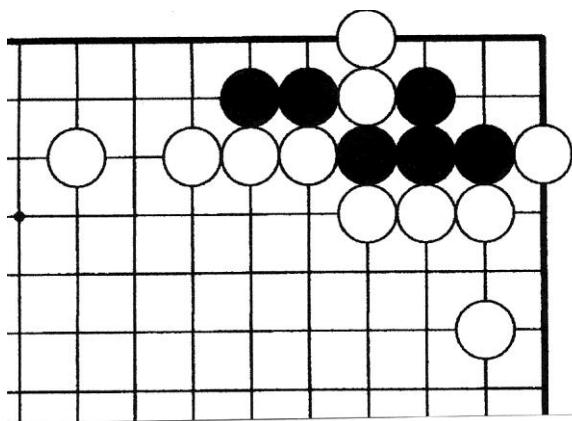
日時 平成24年9月22日(土) 9:00~12:00

出席者 理事6名

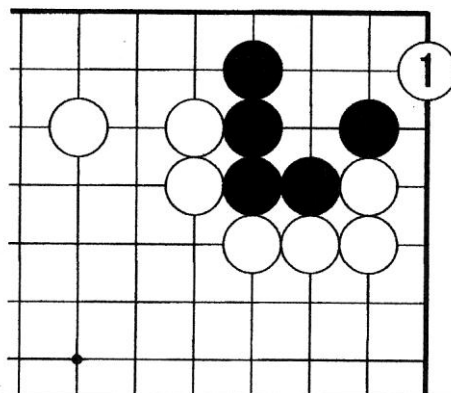
- 議案
1. 活性化実行委員会の議事録についての検討
  2. 八王子市子ども囲碁大会について
  3. 高齢者表彰
  4. 日本棋院会員数
  5. 子ども囲碁教室の指導者育成について
  6. その他

## 詰碁

黒先黒生(碁経精妙)



前回解答



「碁経精妙」 「碁経衆妙」と同じ林元美(はやしげんび)編纂による詰碁。

## 夕焼け小焼けの碑

童謡「夕焼け小焼け」の作詞者中村雨虹(うこう)は1897年、恩方で生まれました。この歌は故郷恩方の風景を歌ったものです。雨虹が還暦を迎えたとき友人たちが彼の生家の宮尾神社の境内に直筆の歌碑を建ててくれました。

編集後記 子ども囲碁大会が無事終わって理事一同ほっとしています。本年度の活いき大会も各地区とも盛況で、かつての団体対抗の役割を十分果たしてくれているようです。残された八碁連囲碁大会、タイトル囲碁大会も活気のある大会となることを願っています。